

【火山現象に関する予報及び警報の状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する予報及び警報の発表履歴 (9月12日~9月18日)

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布状況

表 2 9月18日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード*	該当火山
火口周辺警報	レベル 2 (火口周辺規制)	浅間山、三宅島、霧島山 (新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (御鉢)
	平常	上記以外の活火山

* 噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応をキーワードで示している。噴火警戒レベルを導入していない火山については、警戒事項をキーワードで示している。(本概況末の対応表参照)



図 1 噴火警報発表中の火山 (9月18日現在)

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、山頂火口の噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。また、夜間には高感度カメラ¹⁾により微弱な火映が時々観測されている。火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、山頂をはさむ基線でわずかな伸びを示す変化がみられている。

浅間山では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び小さな噴石²⁾にも注意が必要である。また、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

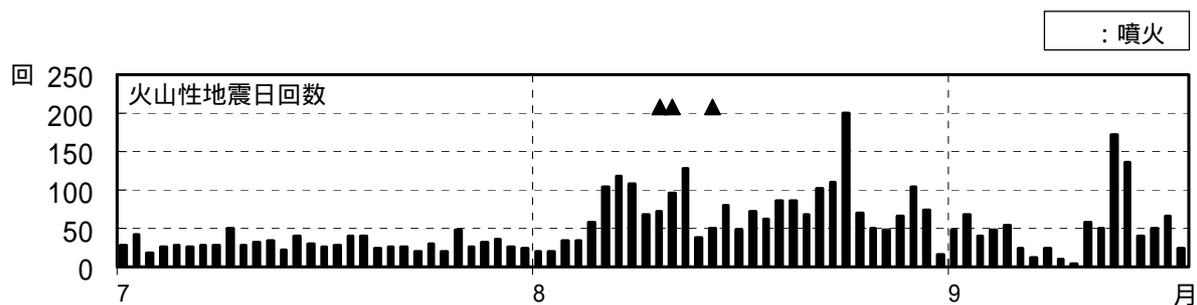


図2 浅間山 火山性地震の日別回数 (2008年7月1日～2008年9月18日)

- 1) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ、国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラ及び気象庁の追分カメラによる。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね300mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

今期間、現地調査を行っていないが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では、引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

霧島山（新燃岳）[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、噴煙量の多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。火山性地震の発生回数は減少しているが、地震回数が増加し始めた 8 月 18 日以前と比べてやや多い状態が続いている。

新燃岳では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から 1 km 程度の範囲に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石²⁾に注意が必要である。

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

南岳山頂火口では、12 日に小規模な噴火が発生した。昭和火口では、今期間、噴火は観測されなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。桜島直下にマグマが新たに移動、上昇したことを示す地殻変動は観測されていない。

国土地理院の GPS 観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。桜島の昭和火口の噴火活動は、2006 年 6 月以降、長期的には次第に活発化する傾向がみられている。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に大きな噴石²⁾を飛散させる程度の噴火が発生すると予想されるので、これらの火口周辺では警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 300m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では警戒が必要である。

口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、火山性地震は少ない状態で推移したが、火山性微動が時々発生しており、火山活動の高まった状態が続いている。

口永良部島では、火口の周辺に大きな噴石²⁾を飛散させる程度の噴火が発生すると予想されるので、新岳火口から約 1 km の範囲では警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾にも注意が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では、今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口から約 1 km の範囲に大きな噴石²⁾を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。

【その他の火山の活動状況】

はこねやま

箱根山 [噴火予報(平常)]

12日夜から13日にかけてと18日夜に、芦ノ湖北部の浅部を震源とする地震がまとまって発生した。最大の地震は12日21時29分に発生したマグニチュード⁴⁾2.5(暫定値)の地震で、箱根町湯本や三島市東本町等で震度1を観測した。

気象庁が湯河原に設置している体積歪計⁵⁾や神奈川県温泉地学研究所の傾斜計⁶⁾等による地殻変動観測では、今回の地震活動に関連した変化はなかった。また、環境省インターネット自然研究所の箱根・大涌谷カメラでは、大涌谷などの噴気等の表面現象にも特段の変化はみられない。

今回の活動がみられた領域付近では、9月9日から10日にかけても地震がまとまって発生しているが、いずれも火山活動の高まりを示すような地震活動ではないとみられる。

箱根山では引き続き火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられず、噴火予報(平常)が継続している。

4) マグニチュード(M)は地震の規模を示す。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがある。

5) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがある。

6) 地面の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがある。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

警報・予報	噴火警戒レベルとキーワード	噴火警戒レベルを導入していない火山に対するキーワード	海底火山に対するキーワード
噴火警報	レベル5(避難)	居住地域嚴重警戒または山麓嚴重警戒	周辺海域警戒
	レベル4(避難準備)		
火口周辺警報	レベル3(入山規制)	入山危険	
	レベル2(火口周辺規制)	火口周辺危険	
噴火予報	レベル1(平常)	平常	平常